

「^{ひょう}兵^が戈^む無用、を私の願いに」

備後教区が平和のつどい

備後教区は10月7日、第20回平和のつどい、第20回平和のつどいを広島県福山市で開き、門信徒や僧侶800人が参加した。

教区内の青年僧侶たちが、昭和20年8月8日にあった「福山大空襲」の体験談をもとに朗読劇「尊い犠牲ってなんだろう」を上演し、参加者へ問題提起（写真）。自衛官を志す孫

に祖父が、広島で被爆した後に福山大空襲で亡くなった兄のことを回想しつつ「本当に尊いのは命。もう二度と尊い犠牲を出しちゃいけない」と投げかけた。

続いて、元陸上自衛官で真宗大谷派門徒の泥憲和さんが「憲法九条の平和力」と題して講演。泥さんは、武器を持たないNPOが紛争地域での支援活動を通して人々に笑顔をもたらした事例を紹介、軍隊も武器も無いという「兵戈無用」の教えを強調した。福山市・照専寺前住職の佐々木至成さんも法話で「兵戈無用の願いを私の願いとして生きていくことが大切」とまとめた。

また同教区は、教区内の寺院や門徒が所有する写真や資料などを収録した冊子「世のなか安穏なれー70年前の実相」を作成した。供出、疎開、特攻などの項目に分けて戦争との関係を検証、70ページに及ぶ。つどいの参加者や教区内寺院などに配布した。

